



平成30年1月19日
総合政策局国際政策課(グローバル戦略)
総合政策局海外プロジェクト推進課交通プロジェクト室
土地・建設産業局国際課
港湾局産業港湾課

牧野国土交通副大臣のセネガル共和国及びモロッコ王国出張の結果概要

～「日・セネガル官民インフラ会議」の開催等～

牧野国土交通副大臣は、我が国の「質の高いインフラ投資」推進のため、1月6日から13日まで、セネガル共和国及びモロッコ王国を訪問しました。

セネガル共和国 (会議等の概要は別紙1を参照)

牧野国土交通副大臣は、TICAD VI(第6回アフリカ開発会議)の成果を踏まえ、また、サル・セネガル大統領と安倍総理大臣との首脳会談(昨年12月)において発出された日・セネガル共同声明に基づき、我が国の「質の高いインフラ投資」のセネガル展開を支援することを目的に、アフリカ・インフラ協議会(JAIDA)企業21社約50名、官民合計約60名を同行してセネガル共和国を訪問し、同国政府と共催で官民インフラ会議を開催しました。

モロッコ王国 (会議等の概要は別紙2を参照)

モロッコにおいては、アマラ設備・運輸・ロジスティクス・水利大臣との間でインフラ協力に係る覚書に署名するとともに、同大臣及びエル・アラミ国土整備・都市計画・住宅・都市政策大臣との会談を通じ、両国共同でモロッコ及び他のアフリカ各国の「質の高いインフラ」整備を促進するため、更なる知識及び経験の共有を図ることにより、両国の協力関係をさらに深めていくことで合意しました。

官民インフラ会議の様子



(注) TICADとは、Tokyo International Conference on African Development(アフリカ開発会議)の略であり、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。2016年8月27～28日に、ケニア・ナイロビにて第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)が開催されました。同会議には、安倍晋三内閣総理大臣が出席し、ケニヤッタ・ケニア大統領(開催国)、デビー・イトゥノ・チャド共和国大統領(AU議長)と共に共同議長を務めました。

<問い合わせ先>

国土交通省 総合政策局 国際政策課(グローバル戦略) 藤田、入江(内線25205、25216)
TEL 03-5253-8111、03-5253-8314(直通)、FAX 03-5253-1562

1. 日・セネガル官民インフラ会議(1月9日)

- (1) 日 時 : 平成30年1月9日(火)
- (2) 場 所 : セネガル共和国 ダカール市内
国際会議場CICAD (Centre international de conférences Abdou Diouf)
- (3) 主 催 : (日本側)国土交通省
(セネガル側)インフラ・陸上運輸・交通整備省
- (4) 参加者: 両国官民合計で約280名
(日本側の主な出席者)
国土交通省(牧野国土交通副大臣、青木建設流通政策審議官)、在セネガル大使館(大森大使)、清水建設 宮本会長(JAIDA会長)、フジタ 奥村社長(JAIDA代表)、酒井重工業 酒井社長を含む日本企業(アフリカ・インフラ協議会会員の建設、コンサル、商社、メーカー等 21社) 他
(セネガル側の主な出席者)
サル大統領、ジャロ インフラ・陸上運輸・交通整備大臣 他
- (5) 概 要:
 - ① オープニング・スピーチ(冒頭挨拶)
会議冒頭、牧野国土交通副大臣、宮本アフリカ・インフラ協議会(JAIDA)会長、サル大統領より、挨拶を行いました。

<牧野国土交通副大臣の挨拶概要>

「今回、セネガル政府のご尽力により、官民インフラ会議を開催できたことに感謝。今後も更なる経済発展が見込まれるセネガルにおいて、道路・橋梁や港湾などのインフラ整備は喫緊の課題であり、都市化の進展に対応して、渋滞対策をとることや、生活環境を整備することも、ますます重要。インフラ需要への対応にあたり大切な視点が「インフラの質」。本日の会議は、日本企業約20社が出席しており、我が国が世界に誇る技術や取組、経験を共有し、今後のセネガルのインフラ整備に貢献出来ることを祈念。」

官民インフラ会議の様子(牧野国土交通副大臣とサル大統領)



② 基調講演

基調講演においては、国土交通省の青木建設流通政策審議官より「セネガルの持続的成長のための質の高いインフラ投資」、海外建設協会の山口専務理事より「我が国建設業の海外活動」、セネガル政府より「セネガルのマクロ経済状況、インフラとセネガル新興戦略、セネガルの投資状況」についてのプレゼンテーションが実施されました。

③ 覚書署名式(「質の高いインフラ投資」推進協力の継続に係る覚書に署名)

牧野国土交通副大臣は、サル大統領臨席の下、ジャロ インフラ・陸上運輸・交通整備大臣との間で「質の高いインフラ投資」推進及び協力関係の継続に係る覚書に署名しました。

覚書においては、「質の高いインフラ投資」の推進に向けて、「日・セネガル官民インフラ会議」の後に対話を継続するため、定期的に意見交換する枠組み「質の高いインフラ対話」(Quality Infrastructure Dialogue)を立ち上げ、対話を継続することで合意しました。

署名式(牧野国土交通副大臣とジャロ インフラ・陸上運輸・交通整備大臣)



④ ワークショップ及びビジネス・マッチング

「建設産業、都市交通、道路、橋梁」「港湾」の2テーマに分かれてワークショップを開催しました。日本企業やセネガル企業等からのプレゼンテーションの後、活発な質疑応答、意見交換が実施されました。ワークショップ後、日本企業が個別のブースに分かれ、関心を有するセネガル企業等と面談を実施しました。日本企業とパートナーとなり得るセネガル企業等との間で、関係構築に向けて活発な情報交換がなされました。

ワークショップの様子



2. セネガル共和国政府要人とのバイ会談(1月8日、9日)

牧野国土交通副大臣は、サル大統領及びジャロ インフラ・陸上運輸・交通整備大臣と会談を行い、TICADVIの成果等を踏まえ、「質の高いインフラ」投資推進に向けた協力関係を強化することで一致しました。また、「ダカール港第三埠頭改修計画」及び「マメル海水淡水化事業」における日本企業受注に向けてトップセールスを実施したほか、ダカール市内の交通渋滞対策や道路整備など各種インフラプロジェクトについて意見交換を行いました。さらに、宮本JAIDA会長からセネガルのインフラ整備に協力したい旨の表明を行うとともに、同行したJAIDA会員企業からも各社の経験や技術について紹介がなされました。

サル大統領からは、会議の成功を喜ぶとともに、日本の支援に対する感謝と、我が国が有するインフラに係る知識やノウハウの移転への期待が表明されました。

ジャロ インフラ・陸上運輸・交通整備大臣からは、日本の訪問団を歓迎するとともに、セネガルの現状とポテンシャルについて説明があり、同国としては、日本とのインフラ分野における協力を機として現地雇用を創出したい旨の発言がありました。また、署名した覚書に基づき、会議のフォローアップとして今秋を目途に「質の高いインフラ対話」を行うことを確認しました。

ジャロ インフラ・陸上運輸・交通整備大臣との会談



サル大統領との会談



3. その他(1月8日)

牧野国土交通副大臣は、セネガルに対する我が国の重点支援プロジェクトの現場である職業訓練センターとダカール港を視察しました。

職業訓練センター視察



ダカール港視察



1. モロッコ王国とのバイ会談(1月10日)

牧野国土交通副大臣は、アマラ設備・運輸・ロジスティクス・水利大臣との間で「質の高いインフラ投資」推進協力に係る覚書に署名するとともに、同大臣及びエル・アラミ国土整備・都市計画・住宅・都市政策大臣との会談を通じ、両国共同でモロッコ及び他のアフリカ各国の「質の高いインフラ」整備を促進するため、更なる知識及び経験の共有を図ることにより、両国の協力関係をさらに深めていくことで合意しました。また、「ケニトラ大西洋新港建設事業」における日本企業受注に向けてトップセールスを実施したほか、「アトラス山脈横断トンネル」など各種インフラプロジェクトの推進について意見交換を行いました。さらに、宮本JAIDA会長からモロッコのインフラ整備に協力したい旨の表明を行うとともに、同行したJAIDA会員企業からも各社の経験や技術について紹介がなされました。

両大臣からは、会談の成功を喜ぶとともに、モロッコへの投資誘致等について説明がありました。また、署名した覚書に基づき、両国共同でモロッコ及び他のアフリカ各国のインフラ整備を促進するために、我が国企業への期待が述べられ、両国の協力関係をさらに深めていくことが重要と確認されました。

アマラ設備・運輸・ロジスティクス・水利大臣とのバイ会談



エル・アラミ国土整備・都市計画・住宅・都市政策大臣とのバイ会談



2. 質の高いインフラセミナー(1月10日)

JETROラバト事務所との共催により、インフラ整備事業に関心を有するモロッコ企業等と日本企業とのインフラセミナーを開催しました。活発な情報交換を行い、日本企業とパートナーとなり得るモロッコ企業等との間で関係構築を行いました。

セミナーの様子



3. その他(1月11日)

牧野国土交通副大臣は、カサブランカ港など、モロッコにおけるインフラ事例を視察しました。

カサブランカ港視察

